「ヨハネの手紙　三」　2026 年 01 月 07 日

長老の私から愛するガイオへ。私は、真理の内にあなたを愛しています。愛する者よ、あなたの魂が幸いであるように、あなたがすべての面で幸いであり、また健康であるようにと、私は祈っています。きょうだいたちが来て、あなたが真理に歩んでいることを証ししてくれたので、私はとても喜んでいます。事実、あなたは真理の内に歩んでいるのです。私の子どもたちが真理の内に歩んでいると聞くほど、うれしいことはありません。愛する者よ、あなたはきょうだいたち、それも、よそから来た人たちに誠実を尽くしています。彼らは、教会の集まりであなたの愛について証ししました。どうか、神にふさわしいしかたで、彼らを送り出してください。この人たちは、御名のために旅立った人たちで、異邦人からは何ももらっていません。ですから、私たちはこのような人たちをもてなすべきです。そうすれば、真理のために共に働く者となるのです。（Ⅲヨハネ 1～8）

Ⅲヨハネも「長老の私から」と書き出して、Ⅱヨハネと同じ著者であると示している。宛先は「愛するガイオへ」となっている。ガイオという名は他に、新約聖書に 3 回書かれている。① 使徒言行録 19 章 29 節の「パウロの同行者であるマケドニア人のガイオ」、②ローマ書 16 章 23 節の「私と全教会との家主であるガイオ」、③Ⅰコリント 1 章 14 節の「クリスポとガイオのほか、あなたがたの誰にも洗礼を授けなった」。これらの記述から、ガイオはマケドニア人で、パウロから洗礼を受け、パウロの宣教旅行に同行し、信徒の家で持たれていた教会を支援した人である。この人は確かに存在した。しかし、Ⅲヨハネが書かれたのは、2 世紀に入った頃で、パウロと親交のあったガイオはもはや亡くなっていただろう。ガイオという名は、一般的な名前で、「ヨハネ教団」の伝統に従って、家の教会を熱心に指導した別人であろう。長老はガイオに、「私は、真理の内にあなたを愛しています。愛する者よ、あなたの魂が幸いであるように、あなたがすべての面で幸いであり、また健康であるようにと、祈っています」と、ガイオへの愛を伝え、魂や全ての面で恵まれ、健康であるようにと祈っていると書いている。そして、きょうだいたちから、あなたが真理に歩んでいることを聞かされ、私は非常に喜んでいる。事実、あなたは真理の内を歩んでおり、自分の子どもたちが真理の内を歩んでいると聞くことほど、嬉しいことはない。長老は、教え子であるガイオが固い信仰に立ち、また、ガイオの教え子たちも、 神の恵みを証しする生活をしていると聞いて心から喜んでいる。長老は、「愛する者よ」と親しく呼びかけ、「あなたは、きょうだいたち、それも、よそから来た人たちに誠実を尽くしています」と、ガイオが人を分け隔てせず、誠意をもって尽くしていることに感謝している。彼は、よそから来た人たちにも誠実に振る舞い、教会の集まりで愛について証ししている。長老は、「どうか、神にふさわしいしかたで、彼らを送り出してください」と、ガイオから信仰の訓練を受けた人たちを、主イエスの御名のために、宣教に送り出してくださいと願っている。彼らは、宣教の対象地の異邦人からは何ももらっていない。経済的・物質的援助は受けない節度を守っている。（パウロは最前線の宣教地からの謝礼は受けないことを誇りにしていた。）この節度を守っている人たちを支援すべきである。彼らを支援すれば、主イエスが示してくださった福音の真理のために、私たちは共に働く者となることができる。「ヨハネ教団」は、主イエスの愛をリアルに受け止め、それを証ししたいという篤い宣教心に燃えていた。